

事例 その他	本事例の中心人物 学長 工学部環境機能工学科 環境マインドプロジェクト推進本部 事務局
IS014001 認証取得を通じた UI (University Identity) 構築	
～ 信州大学 ～	

事例内容

【概要】

信州大学では工学部環境機能工学科設置を契機に工学部が IS014001 認証を取得し、全キャンパスでの取得を推進する過程で、教育 GP への採択や環境 ISO 学生委員会の活動などと併せて「UI (University Identity) : 例『エコキャンパス』、『環境は信州大学』」構築を推進している。

【背景】

国立大学工学部として初めて IS014001 認証を取得したこと(平成 13 年 5 月 30 日)を契機に「環境マインドをもつ人材の養成とエコキャンパスの構築」を通じ、大自然に抱かれ、広く県内全域に 8 学部を擁している総合大学である信州大学が環境マインドの源となることを目指した。

【取り組み内容】

エコキャンパス構築

平成 13 年に工学部で IS014001 認証取得した。その後、平成 17 年に教育学部、平成 18 年に繊維学部・農学部、平成 19 年には医学部・付属病院・理学部・経済学部・人文学部(松本旭キャンパス)でも取得を予定している。日頃の環境保全活動とともに全キャンパスでの取得を推進し、学生中心の手作りによるエコキャンパスの構築を目指した。

「環境マインドをもつ人材の養成」と教育 GP 採択

環境調和型技術者の育成プログラム、環境マネジメントインターンシップを通じて「環境マインドをもつ人材の養成」に取り組んでいる。

平成 16 年度文部科学省の特色ある大学教育支援プログラムに「環境マインドをもつ人材育成」が採択された。

地域一体の環境教育システム構築

長野県環境保全協会や自治体などと連携した学生による地域環境保全活動を推進している。

また、環境教育カリキュラムや開発した DVD 教材の地域への公開などにより、地域の環境マインド育成にも貢献し、地域連携の環境プログラムを推進している。

内部環境監査と内部環境監査員の育成

年 2 回の内部環境監査を実施し、環境マネジメントプログラムの達成を図っている。

全キャンパスで内部環境監査員の育成に取り組み、平成 18 年 3 月末で約 800 名が内部監査養成コースを終了し、平成 19 年度までに 1,000 名を養成する予定である。環境 ISO 学生委員会・全国大会の実施

平成 18 年 6 月、信州大学・信州大学環境 ISO 学生委員会連合が主催し、10 大学 14 学生委員会が参加した全国大会を実施した。エコキャンパス宣言 2006 を採択し、次回開催大学である千葉商科大学の挨拶を経て閉会し、今後の継続のスタートを切った。

【結果】

環境マネジメントを軸に、学生の主体性が一層向上するとともに、地域社会の信州大学に対する認識が浸透し、期待も高まった。特に、日常生活での環境問題(市街地でのごみの始末、地域環境の保全など)に対して同大学と一体となった市民の認識が形成された。

成功のポイント

理念・目標の明確化

- ・県内全域に広がる8学部それぞれの歴史がある全学が一体となった活動は、学長のリーダーシップが鍵となった。
- ・環境機能工学科設置という契機を活かした。
- ・上記の活動にあたり、まず工学部において自然と他学科の協力が得られた。

環境機能工学科が先導し、活動基盤を支えながらも学生を主体とすることによってなされた活動

- ・環境 ISO 学生委員会が設置され、各キャンパスでの活動の中心となっている。その交流により「信州大学環境 ISO 学生委員会連合」が結成されている。
- ・各キャンパスの環境 ISO 学生委員会は、大学の環境管理体制の正式組織として環境委員会などにその代表が参加している。
(現時点では、松本旭キャンパスの環境 ISO 学生委員会は人文学部の学生が中心となって準備段階である。)

活動とリンクしたカリキュラム

- ・全学生向けのカリキュラムとして、平成17年度には「環境と技術」を設け、更に平成18年度からは、「環境と人間」という科目群を新たに設け、約40に及ぶ授業を開講している。

今後の課題(展開)

平成19年度の松本旭キャンパス：医学部・付属病院・理学部・経済学部・人文学部での認証取得が直近の課題である。

環境マインドプロジェクトの目的である「日本の環境教育の拠点を構築：『環境は信州大学』を確立」を一層、推進することが今後の課題の柱である。そのためには、今、取り組んでいる活動を継続し、より拡大することに全学を挙げて邁進する。

委員の所感

松本・長野・上田・伊那に8学部が広がっているということは、長野県全域を網羅しているという強みがある一方、地域イメージによるUI形成が難しく、固有の専門性を総合し、強調したイメージでのUI形成が鍵になるのではとの仮説をもって訪問した。この点をより明確にされ、「環境」を軸としたUI形成の進め方を「ISO14001認証取得の経緯」としてうかがった。

その中で強く感じたことは、学長をはじめ教職員の方々の「学生を尊重し、期待する思いの強さ」と「一人の先行者よりも、互いがある時は先導し、次に後援するという連携とコミュニケーション」および「地域貢献や市民参加あるいは今後の社会像など広い視野に立った活動基盤の形成」である。こうしたことが活動に具現化され、学生を主体に、地域を巻き込み、広く全国の大学の参画を得ながら、活動が深まっていることを実感した。特に学生の諸活動について話す時の晴れやかな教職員の方々の表情が印象に残っている。

大学は基本的に、目的意識と向上心にあふれた人々が集う場である。「人やその心」に軸足を置かない活動はそぐわないように思う。ましてUIといった存在感そのものに関わる活動であれば、なお更のことであろう。

UIの確立といったことは明示していないが、今後とも全学を挙げて「環境マインドプロジェクト」が推進され、「(信州大学の)環境マインド」が周囲に浸透していくことを思うと、この活動はUI構築における規範的な事例の一つになると考える。